

【トマト】【ミニトマト】における殺虫剤一覧

J A山武郡市、山武農業事務所改良普及課

生育ステージ	RACコード	殺虫剤名	使用回数	コナシラミ類	(シルバーリーフコナシラミを含む)	アザミウマ類	ミカンキイロアザミウマ	ハモグリバエ類	オオタバコガ	トマトキバガ	トマトサビダニ	アブラムシ類	ハスモンヨトウ	微小害虫には『総合防除』による対策が重要！ ①「つながない」 ・作のリセット ・除草 ②「入れない」 ・苗管理 ・防虫ネットの展張 (0.4mm、0.3×0.6mm目) ③「増やさない」 ・薬剤防除 ・発病株除去 ④「出さない」 ・防虫ネットの展張 ・密閉処理 (枯死促進) 4つの対策を全部完璧に実施し、100点満点で初めて有効！	
定植後	5	ディアナSC	2回	○		○		○	○	○			○	薬剤防除の空白期間を作らない！	
	34	ファインセーブフロアブル	3回		○	○					○			育苗期間中を含む『栽培初期』の防除を最重要視する ・罹病株、害虫寄生苗を定植をしないこと ・「見えない」うちから防除を行う！ ・「100%効く」剤はない	
	30	グレーシア乳剤	2回	○		○		○	○	○	○		○		
	4C	トランスフォームフロアブル	2回	○							○	○			
	6	アフーム乳剤	5回	○				○	○	○	○			気門封鎖剤を活用してみる 定期的散布より、短期集中散布が効果的！ →組み合わせ次第で薬害が生じることも	
	13	コテツフロアブル	3回				○		○	○	○				
	UN	プレオフロアブル	2回					○	○	○			○		
	28	ベネビアOD	3回	○		○		○	○	○		○			
	9B	コルト顆粒水和剤	3回	○								○			

○農薬使用時は、ラベルに記載されている内容を確認してください。

○RACコードは同じ作用機構の農薬をグループ分けしたものです。ローテーション散布を心掛け、同一系統の薬剤の連用は避けましょう。

殺虫剤の特性

RAC	作用部位	特性
4A、4C、5	神経作用	神経伝達を阻害し、過剰興奮から活動低下や麻痺のような一連の症状を引き起こす。速効性。
6	神経及び筋肉作用	神経伝達物質を活性化させ、麻痺を引き起こす。速効性。
9B	神経作用	摂食行動やその他の行動を攪乱。やや遅効性。
13	エネルギー代謝	ATP合成（エネルギーを作り出すプロセス）を阻害。遅効性。
15	生育調節	キチン質合成（虫の外骨格や硬い皮膚を作っている物質）を阻害。遅効性。
RAC	作用部位	特性
28	神経及び筋肉作用	筋収縮と麻痺を誘導。速効性
30	神経作用	過剰興奮と痙攣を引き起こす。速効性。
34	エネルギー代謝	細胞によるエネルギー利用を妨げる。やや速効性。
UN	作用機構が不明 あるいは不明確な剤	